

▽梁川庄八 (前後篇)

帝キネ芦屋時代映畫

原作並脚色者

勝本 勝雄氏

監督者

佐藤 樹一路氏

撮影者

鍋本 榮一郎氏

主要役割

梁川庄八

尾上 紋十郎氏

父兵衛

浅野 節氏

伊達政宗

阪東 豊昇氏



「梁川庄八」帝キネ佐藤樹一路氏作品。右より尾上紋十郎氏と松枝鶴子嬢

片倉東山 中村 龍見氏
一子小十郎 嵐 瑠運見氏
浪人藤代重太郎 結城 三重吉氏
妻あつめ 山下 澄子嬢
梁川家忠僕治助 片岡 童十郎氏
齋藤外記 林 誠太郎氏
妹白藤 松枝 鶴子嬢
解説「お半と徳七」について
佐藤樹一路氏が監督製作した
時代劇である。
略筋—奥州仙臺伊達公の家臣
梁川庄兵衛及び一子庄八は關ヶ

原の大戦後功名争ひより奸臣片倉東山一味の爲めに計られ伊達家を瀕人し剩へ庄兵衛は彼等の兇刃に介された。悲憤やる方なき庄八は老僕治助と共に父の仇並伊達家安泰の爲めに奸臣等を介し、この上は彼等の血縁に討たれんと覺悟を以て、名乗つて出たが専横にも彼等は庄八を牢に閉ぢ込め食物さへ斷つてしまつた。さすがの庄八も、天命を待つのみとなつた折柄忍んで來た許嫁白藤の兄齋藤外記の情けで彼は其夜破牢を企てたが見廻りの役人に發見され猛雨を冒して役人等との大亂闘は開始された。(前篇の終り)

群がる役人を斬り抜けて首尾よく落ちのびた庄八は慕ひ來へた白藤と道を急ぐ折、これを知つた政宗は怒り直ぐ様追手を差向けたが庄八に敵する者なく益々立つた政宗は庄八召捕方を齋藤外記に命じた。庄八と白藤は目的のない旅を續けてゐたが仇討の助太刀をしてから自分が殺めた人の血縁達の苦衷を思ひ仙臺に歸らうとした。折しも主命で追ひ來つた外記に出會つた。再會の喜びも東の間三人は惱まねばならなかつた。けれども政宗より歸參狀を持つて馳つて行つた。此處に於て梁川父子の忠節を知つた政宗は自分の不明を詫び改めて仕官するやうにとのことであつたが庄八は正しき反抗といへその犠牲になつた人々の血縁達に對し主君のお言葉を受ける事は出來ぬと只管に死を願ひ白藤の舞を最後のはなむけとして遂に切腹して果てたのであつた。(後篇終り)